

岩手県感染症週報

平成29年第46週(11月13日～11月19日)

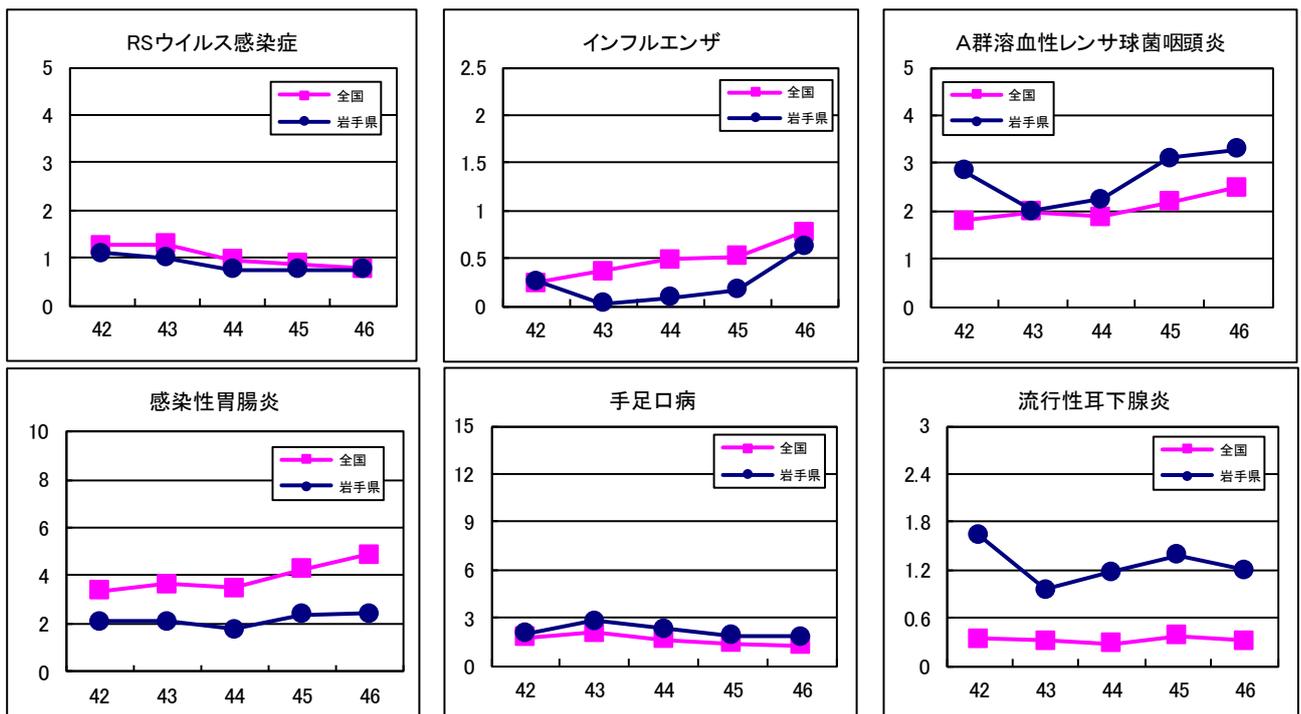
岩手県感染症情報センター

第46週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が2例ありました。このうち潜在性結核感染症の報告は1例です。
- 3 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が、大船渡地区から1例ありました。
 - ・梅毒の報告が1例ありました。患者は50歳代の男性です。今年これで13例目となります。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・インフルエンザは、前週より増加しました。例年この時期から流行が始まるので注意が必要です。地区別では中部地区で多くその患者の多くは1～5歳が占めています。県環境保健研究センターで行っているウイルス検査では、A香港型が検出されています。ワクチンは接種後効果が現れるまで2週間程度かかることから、早めの接種が勧められます。希望する方は医療機関へお問い合わせください。
 - ・溶連菌咽頭炎は、盛岡市及び宮古地区で多くなっています。例年冬にかけて増加するので今後注意が必要です。感染後、肺炎や腎炎などの合併症を引き起こすことがあるので、7～10日間の抗菌剤内服が必要です。予防には手洗いやうがいの励行が重要です。
 - ・流行性耳下腺炎は、今年3月上旬から報告数の多い状況が続いています。無菌性髄膜炎や難聴等合併症を起こす場合があり注意が必要です。ワクチン接種による予防が効果的です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		42	43	44	45	46		
インフルエンザ	岩手県	0.26	0.03	0.09	0.17	0.62	↗	☆
	全国	0.24	0.36	0.49	0.52	0.77		
RSウイルス感染症	岩手県	1.1	1	0.75	0.75	0.75	→	☆
	全国	1.26	1.29	0.96	0.88	0.76		
咽頭結膜熱	岩手県	0.15	0.15	0.15	0.43	0.3	→	☆
	全国	0.44	0.53	0.51	0.63	0.67		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.83	2	2.25	3.1	3.28	→	☆
	全国	1.8	1.97	1.88	2.19	2.5		
感染性胃腸炎	岩手県	2.08	2.1	1.75	2.35	2.43	→	☆
	全国	3.36	3.63	3.47	4.27	4.89		
水痘	岩手県	0.45	0.35	0.28	0.28	0.3	→	☆
	全国	0.33	0.29	0.47	0.44	0.56		
手足口病	岩手県	1.98	2.78	2.33	1.85	1.8	→	☆
	全国	1.78	2.07	1.62	1.41	1.28		
伝染性紅斑	岩手県	0.35	0.38	0.2	0.3	0.35	→	☆
	全国	0.05	0.07	0.05	0.07	0.06		
突発性発疹	岩手県	0.25	0.43	0.45	0.45	0.28	→	☆
	全国	0.41	0.44	0.4	0.43	0.43		
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.65	0.3	0.55	0.35	0.33	→	☆
	全国	0.41	0.4	0.31	0.24	0.23		
流行性耳下腺炎	岩手県	1.63	0.95	1.18	1.38	1.2	→	☆
	全国	0.34	0.31	0.28	0.38	0.31		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02		
流行性角結膜炎	岩手県	0.29	0.5	0.86	0.36	0.71	↗	☆
	全国	0.82	0.74	0.7	0.85	0.83		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0.05	0	0	→	
	全国	0.03	0.01	0.02	0.04	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.04	0.04	0.02	0.05	0.05		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	1	0.47	0.74	1.37	1.53	→	☆
	全国	0.37	0.32	0.39	0.52	0.54		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0.05	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	1	0	1	0	2		
	全国	33	18	26	50	60		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		42	43	44	45	46		46	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	7 (5)	3 (1)	6 (3)	4 (2)	2 (1)	204 (104)	355	20091
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	1	0	7
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	2	4	128
	腸管出血性大腸菌感染症	3	0	0	0	0	152	29	3747
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1	36
	バラチフス	0	0	0	0	0	0	0	13
	E型肝炎	1	0	1	0	0	4	4	281
四類 感染症	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	2	0	247
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	24
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	11
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	8
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	1	4
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	1	88
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	2
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	4
	つつが虫病	0	0	0	0	0	3	29	184
	デング熱	0	0	0	0	0	0	0	230
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	2	322
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	1	2
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	2
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	3
マラリア	0	0	0	0	0	0	1	55	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	1	19	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	1	
レジオネラ症	1	1	0	0	0	20	15	1594	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	41	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		42	43	44	45	46		46	累計
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	7	14	947
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	2	3	259
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	1	0	0	1	14	13	1472
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	1	6	597
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	12
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	1	173
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	0	0	0	4	9	486
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	2	14	1222
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	50
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	2	3	320
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	23
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	13	48	2730
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	5	5	269
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	1	0	0	1	13	62	5053
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	1	117
	破傷風	0	0	0	0	0	1	1	115
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	70
	風しん	0	0	0	0	0	0	1	81
麻しん	0	0	0	0	0	0	0	188	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	22	

今注目の感染症

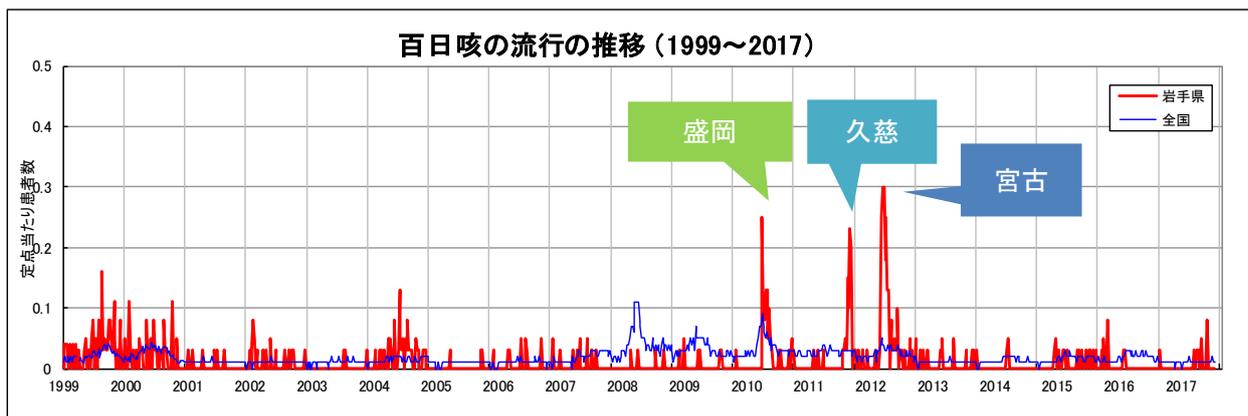
百日咳

百日咳は、「百日咳菌によって起こる急性の気道感染症」です。おもな症状は長期間続く咳で、特に新生児や乳児が罹患すると重症化するため予防接種が重要です。予防接種は、「百日咳ジフテリア破傷風不活化ポリオワクチン」を初回免疫として生後3か月以降に3回、追加免疫として1回接種することになっています。しかし、百日咳ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まるため、接種していても感染することがあり、近年は思春期や成人層での集団感染事例が報告されています。大人は感染しても典型的な症状がみられないことが多く、ワクチン未接種児に感染し重症化させてしまうので、ワクチン未接種児の家族は特に注意が必要です。

岩手県の発生状況は、2010年に盛岡市で、2011年に久慈地区で、2012年に宮古地区で地域流行がありました。それ以降は、患者届出は全国と同様に少なくなっています。

参考 IASR 2017年2月号 特集 百日咳 2017年1月現在

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/pertussis-iasrtpc/7075-444t.html>



今注目の感染症 (つづき)

レジオネラ症

レジオネラ症は*Legionella pneumophila* (レジオネラ・ニューモフィラ) を代表とするレジオネラ属菌による細菌感染症で、その病型は劇症型の肺炎と一過性のポンティアック熱があります。レジオネラ属菌はもともと土壌、河川、湖沼など自然環境に生息する菌ですが、浴槽水や冷却塔水、噴水等の水景施設などの人工環境水においてアメーバを宿主として増殖します。微生物が繁殖してできるバイオフィーム(生物膜、ぬめり)が格好の繁殖場所です。このレジオネラ属菌に汚染された人工環境水から発生するエアロゾル(目に見えないほど細かい水滴)が主な感染源といわれています。

レジオネラ属菌に暴露されても発症することはまれですが、高齢者や新生児、免疫力低下をきたす疾患を有する方は発症リスクが高く、注意が必要です。ヒトからヒトへの感染はありません。

2017年は第43週までに20例の報告がありました。第39週から第43週まで5週続けて報告されています。20例のうち18例が男性です。2006年からこれまでの報告をまとめますと、男性が多くを占めています。年齢層別では60歳代が最も多く、次いで50歳代、70歳代の順になっています。

家庭のお風呂では、エアロゾルの発生を抑えるために気泡発生装置(ジェットバス)の使用を控えること、浴槽水をシャワーに使用しないこと、浴槽や配管にバイオフィームが発生しないように消毒や清掃を適宜行うことが重要です。お湯を循環ろ過して長時間使用する24時間風呂は、レジオネラ属菌が増殖しやすい環境にあることから特に注意が必要です。また、加湿器(超音波方式と遠心噴霧方式)も水を入れるタンクにバイオフィームができてレジオネラ属菌が繁殖する場合がありますので、水は毎日取り換えること、タンク内をこまめに洗浄することが重要です。

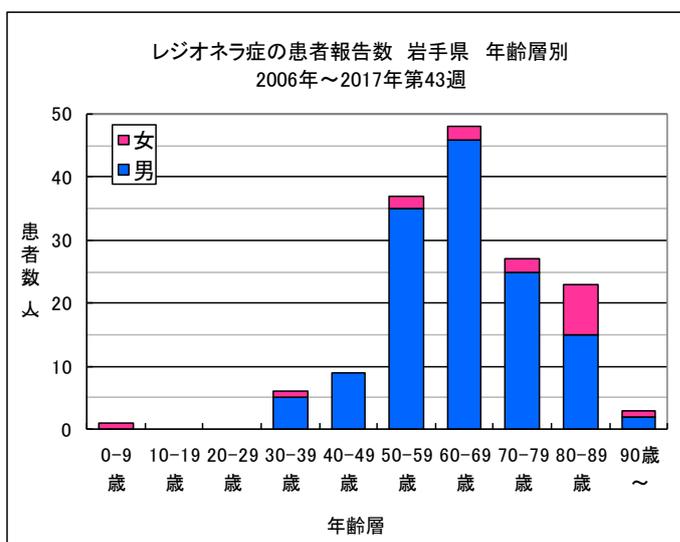
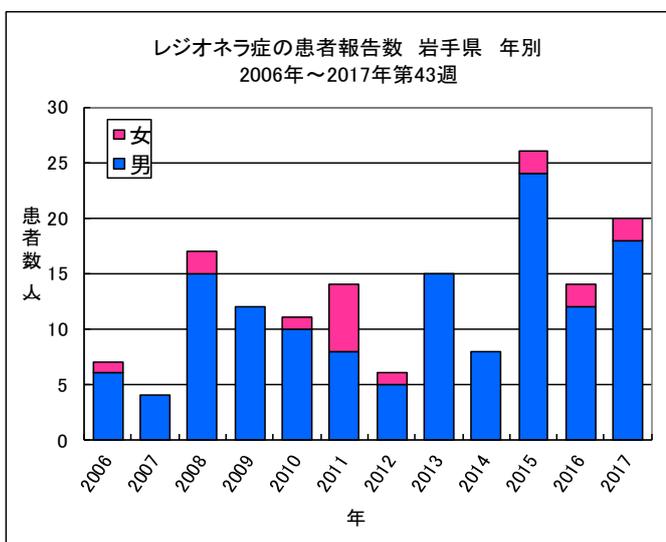
岩手県では多くの方が利用する公衆浴場や旅館・ホテルの入浴施設について、レジオネラ属菌を防除するために、施設の営業者が講ずべき衛生措置の基準を条例で定めています。基準等の内容は下記の『「レジオネラ」ってなに?』のホームページに記載されています。

参考 岩手県

「レジオネラ」ってなに? <http://www.pref.iwate.jp/anzenanshin/seikatsueisei/002821.html>

国立感染症研究所

レジオネラ症とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/530-legionella.html>



病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

集団感染情報

- ・この週には集団感染情報はありません。

医療機関からの情報

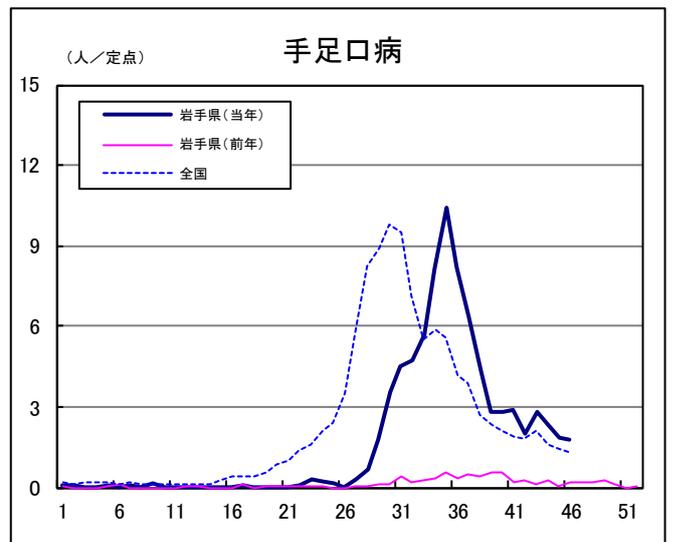
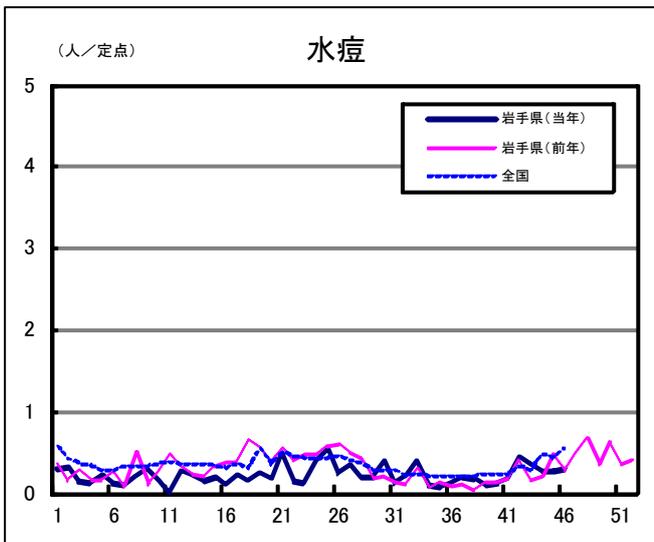
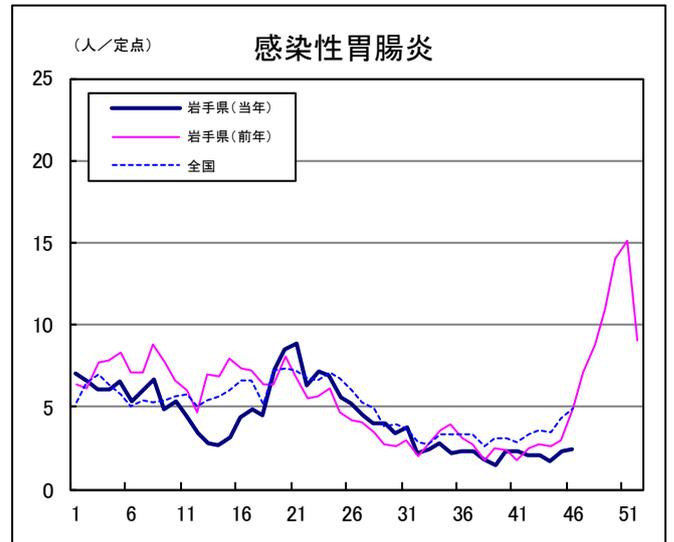
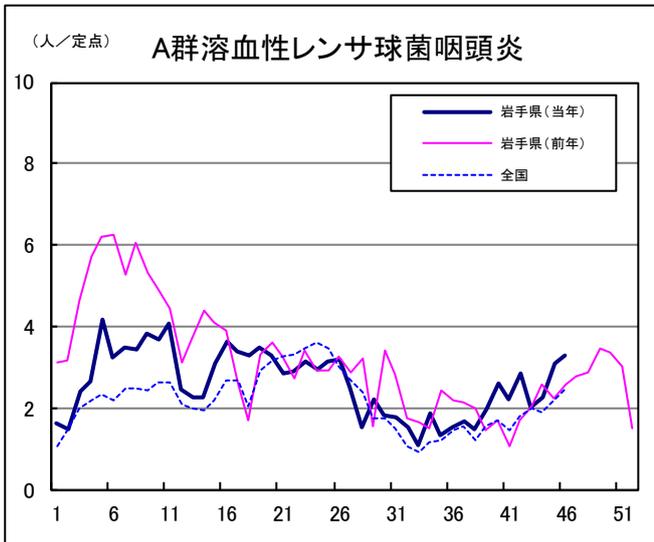
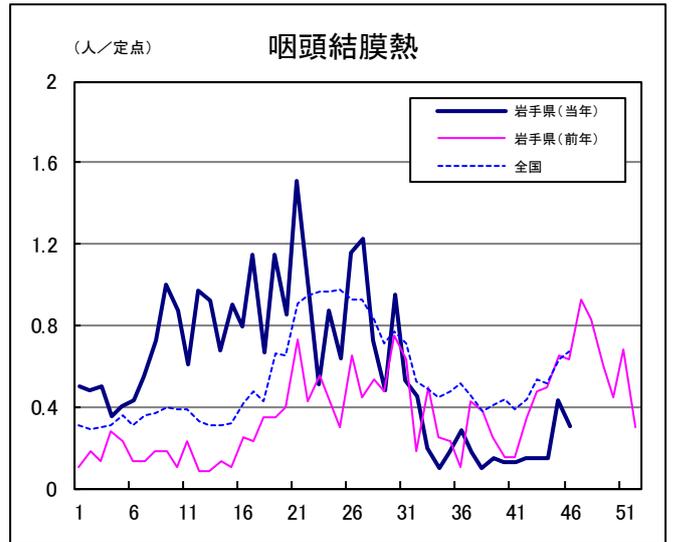
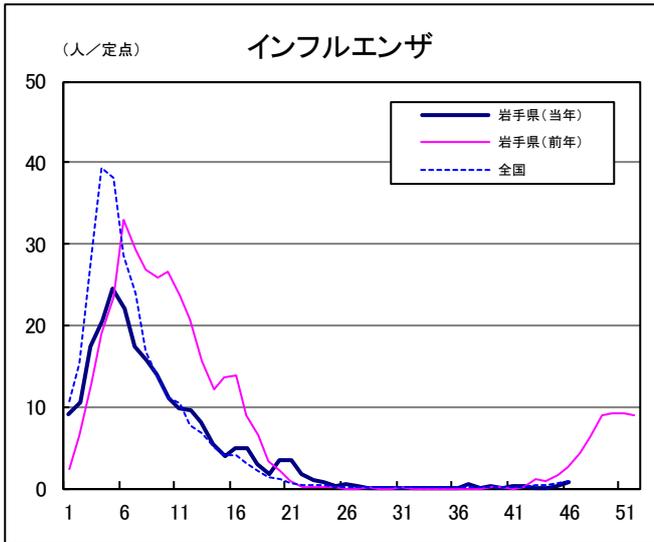
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

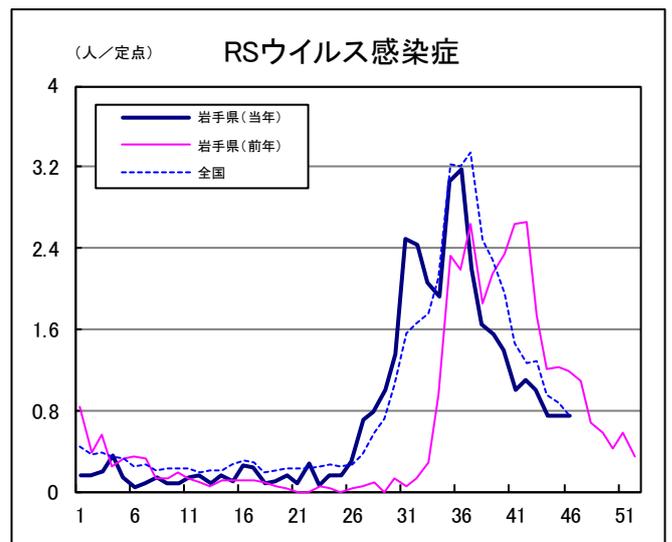
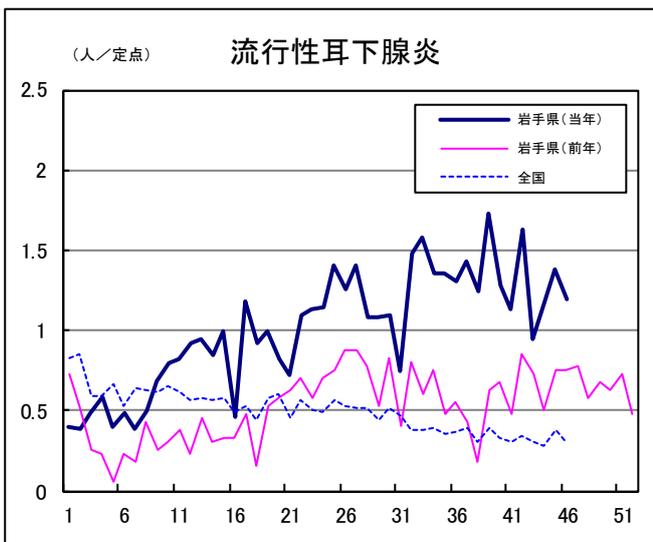
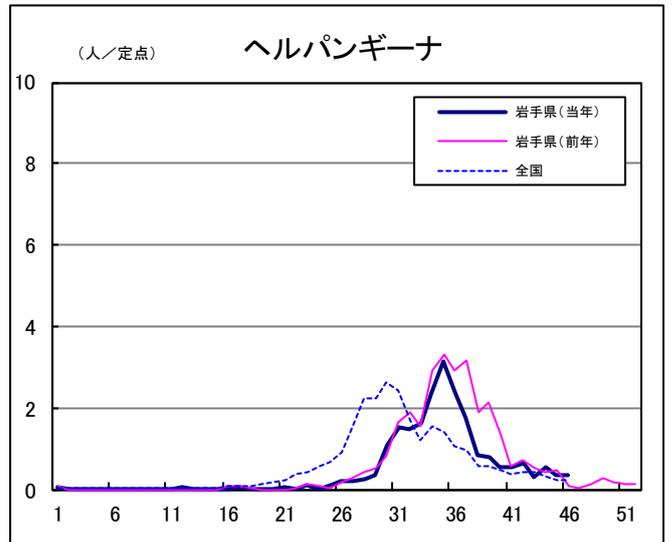
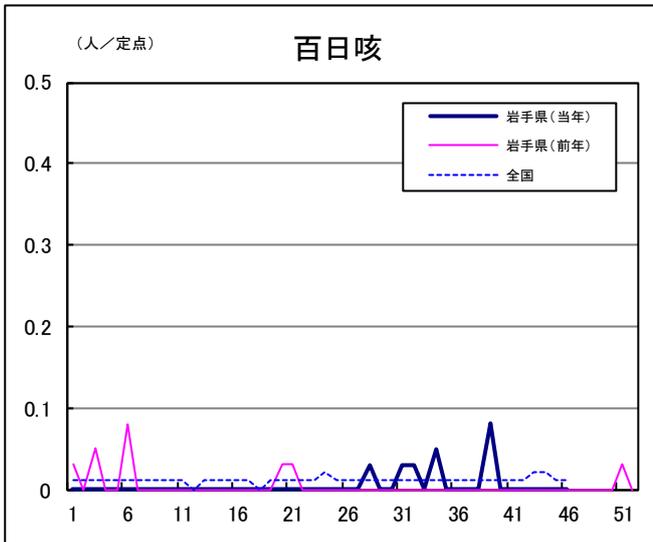
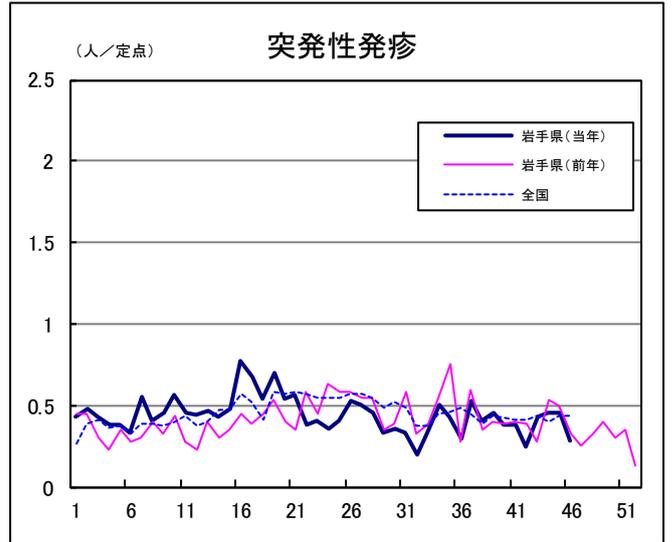
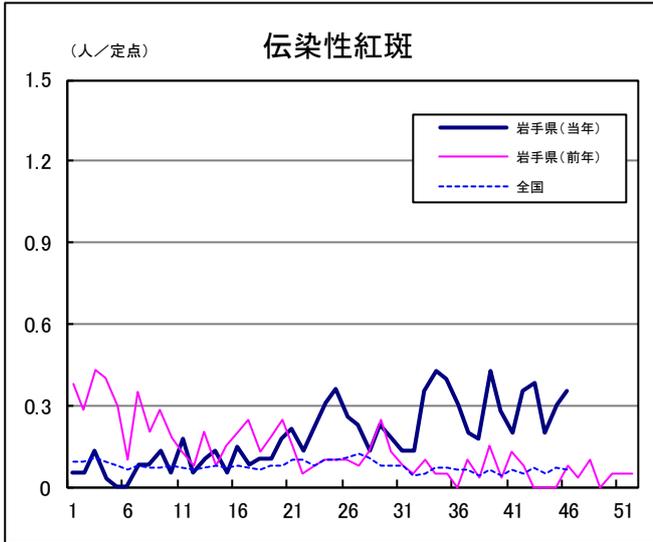
Q & A

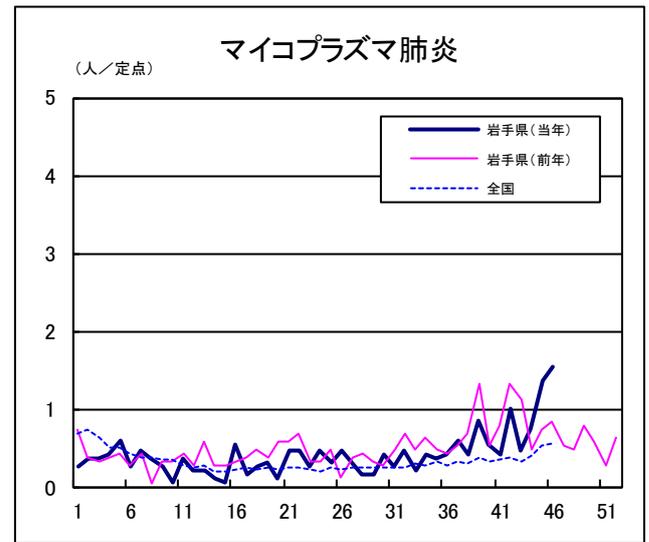
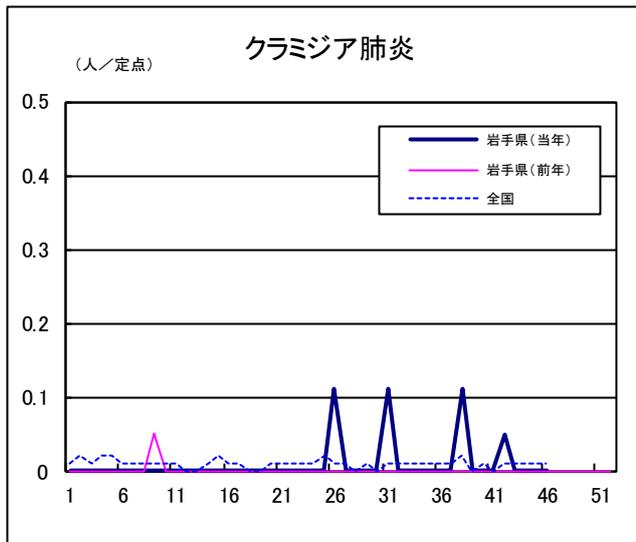
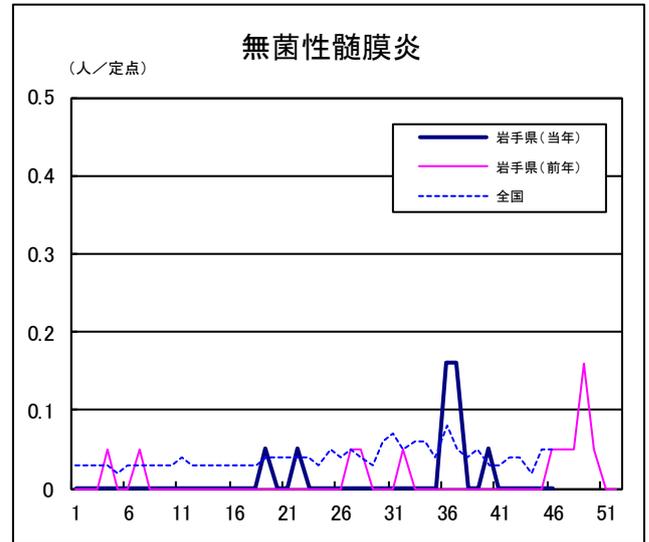
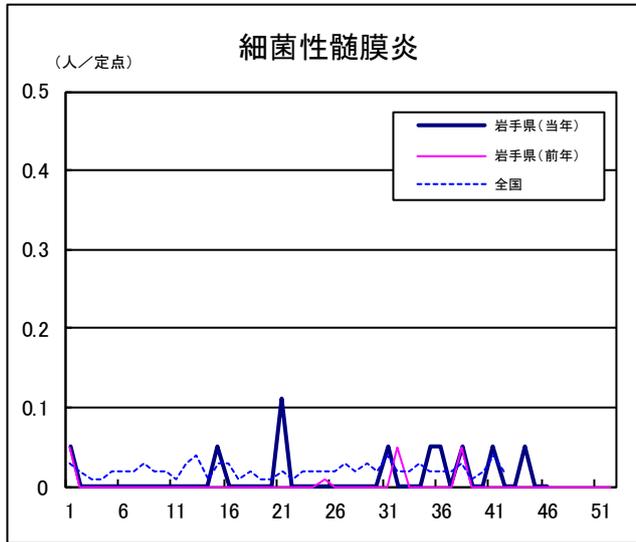
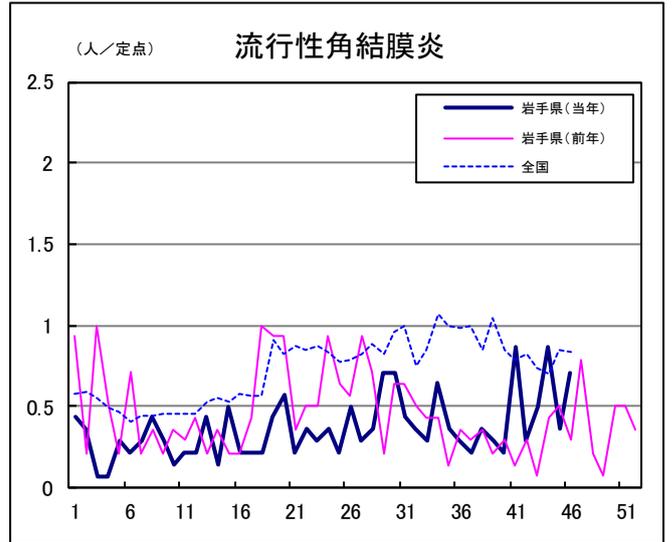
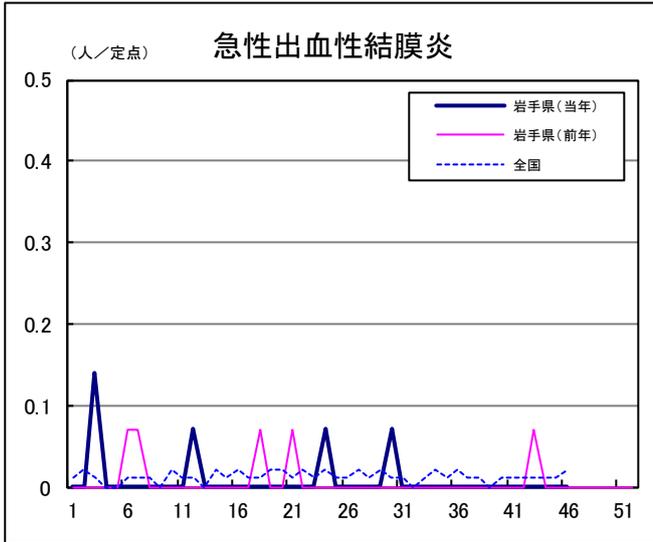
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県		65	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		8	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成29年第46週 平成29年11月25日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>